

●ロシアに留まらず、旋律を滑らかに歌い上げる点、そしてフレージングの柔軟さなど、ベサリアンさんの表現豊かな演奏に対しての評価は大変高いものです。その豊かな歌いくちは、アルメニア人特有のものなのでしょうか？

○どうでしょうね、とあるロシアの評論家の方からは、私の演奏するラフマニノフ「コレルリの主題による変奏曲」から、古代のアルメニア聖歌を感じると言われたことがあります。

●アルメニア聖歌といえば、今回プログラムに入っているアルメニアの作曲家、バグダサリアンによる「3つのプレリュード」もアルメニア宗教音楽の音楽語法を用いているようですね？



エドゥアルド・バグダサリアン(1922-1987)

○バグダサリアンは“アルメニアのラフマニノフ”と呼ばれた人物。エレバンに生まれ、ピアノ演奏と作曲の両方を学び、ロシアで研鑽を積んだ後、エレバン・コミタス音楽大学(ベサリアンさんも博士号を取得した学校)で教鞭を執りました。

ピアノ作品に留まらず管弦楽作品やバレエ、ピアノ協奏曲、室内楽や映画音楽など、幅広いジャンルの作品を残しています。

今回演奏する「3つのプレリュード」も古典的な形式を用いつつメロディーの組み立て方は正にアルメニアの古代聖歌のような趣。ハーモニーも極めてアルメニア的です。そしてピアノの響きはとてラフマニノフチック、と言えると思います。

●ラフマニノフチック…。バグダサリアンの、メロディーメーカーとしての手腕、そこに加えられる絶妙なハーモニーと和音の進行、その和音から引きだされるピアノという楽器の美しい響きと共鳴、そして余韻。「プレリュード」もどこか物悲しさのある、ドラマチックな曲想ですが、こういった作風もやはりラフマニノフからの影響によるものだと思いますか？

○ソ連時代に生きた作曲家達は皆、多かれ少なかれロシアロマン派の音楽とラフマニノフからの影響、そしてインスピレーションを受けていると感じます。

厚みのある豊かなハーモニー、押し流されるかのように淀みなく流れる旋律などですね。ただそれに劣らず、アルメニア的な独特の和音、アルメニア古代の聖歌に基づいたユニークな旋律線、民族舞踏的なリズム…など、アルメニアのルーツを感じて頂けると思いますよ！

●この日は他のアルメニアの作曲家、ババジャニアンによるプレリュード、メロディー、そしてエレジーも演奏されますね。ババジャニアンはピアニストとしても才能があり、ラフマニノフに匹敵すると言われていたそうですね。



アルノ・ババジャニアン(1921-1983)

○バグダサリアンの1年前に生まれたババジャニアンもモスクワ音楽院に行った後ロシアで活躍をしましたが、祖国アルメニアの民族色と、ロシア流の超絶技巧を組み合わせた、優れた作品を残しています。特に今回演奏する3つの作品からは、その

コンピネーションを感じ取って頂けると思います。ショパンからラフマニノフを経由して受け継がれたメロディーの美しさは「プレリュード」に。次の「メロディー」ではラフマニノフのコンチェルト緩徐楽章を思わせる曲想を聴くことができます。最後の「エレジー」(哀歌、の意味)はババジャニアンの晩年、1978年に書かれた作品で、同年他界したアルメニア出身の作曲家アラム・ハチャトゥリアンに向けて作られました。実はハチャトゥリアンはババジャニアンが僅か5歳の時にその音楽的才能をいち早く見出し、音楽家としてのキャリアをサポートした人物です。この曲はアルメニア文学を代表する詩人の一人、サヤト・ノヴァ(1712-1795)による歌を元にアレンジされています。

●最後に、メッセージをお願いいたします。

○ババジャニアンとバグダサリアンの作品は、アルメニア民族音楽の影響を色濃く受けています。作品の飾り気のない素朴さと滲み出る情感に、私はアルメニア人と日本人の国民性の共通点を強く感じます。色彩溢れる豊かな和音、詩情、そして技巧性をお楽しみください。

『音楽とは、聴く者の心を捉え、訴えかけ、感動を呼ぶものであるべきなのです』とはババジャニアンの言葉ですが、彼の音楽は正にこの言葉通り、日本人である私達の心にも訴えかけるものがあります。演奏される機会があまり多くないこれらの作品を、アルメニア人であるベサリアンさんの演奏で、是非お楽しみ下さい！

【参照】

“Wisconsin Public Radio Raffi Besalyan July 13th, 2012” :

“Fanfare Magazine Interview: Raffi Besalyan”

“Pianists From the Inside: Raffi Besalyan”

ラフィ・ベサリアン スイーツタイムコンサート

【プログラム】

モーツァルト：ピアノソナタ 第10番 八長調 K.330

バグダサリアン：3つのプレリュード

ガーシュウィン/ワイルド編：3つのエチュード

ショパン:バラード 第4番 へ短調 Op.52

ババジャニアン：プレリュード、メロディー、エレジー

ラフマニノフ:プレリュード Op.23-5, 32-5

ピアノソナタ 第2番 変口短調 Op.36

3月31日(土) 13:30 開演(13:00開場)

¥2,000 自由席 [チャリティーシート¥2,200]

チケット有! ご予約は宗次ホールチケットセンターへ

☎052-265-1718(10:00~16:00 ※一部例外有)